

令和7年度第2回 摂津市がん検診運営委員会 要点録

日 時 令和8年2月13日(金)
場 所 摂津市役所本庁 301階 会議室
出席者 委員4名(1名欠席)
傍聴人 0名

議題1 【項目5】ダブルチェック体制における連携方法について

議題2 【項目11】胃内視鏡検診における対象年齢・受診間隔について

1. ダブルチェック体制における連携方法について

胃内視鏡検診のダブルチェック体制におけるクラウドシステム運用について一社から説明

(1) ダブルチェック体制における連携方法をクラウドシステムの活用とするか

ご意見

・クラウドシステム運用とする場合、市民を識別する番号のようなものはあるのか。

〈回答〉システム会社の見解も聞き検討する。

ご意見

萎縮性ポリープや異形成ポリープの場合は再検査の必要があるが、その他の病変となるのか、所見があっても胃がんなしということになるのか。

〈回答〉実施要領で判定例をお示しする方向で検討する。

ご意見

自施設内で一次・二次読影が可能な医療機関でもクラウドシステムで運用するということか。紙での手書き記入による予診票との併用も考えているのか。

〈回答〉

管理体制が煩雑となることを避けるために、原則は全て同じクラウドシステムによる運用方法で管理したいと考えているが、検診体制の確保状況によって必要であれば検討する。

ご意見

・クラウドにすると費用がかかるが、どのように考えているか。
・他のがん検診も今後デジタル化していくということか。
・予算の問題やその他の検診との兼ね合いなどを考慮しなければ、クラウドシステムでの運用に反対はない。

〈回答〉

- ・摂津市 DX(デジタルトランスフォーメーション) 推進計画に位置付け、必要経費の確保に向けて予算調整を進める方針。
- ・クラウドを活用しないと実現できないような検診として、当面は胃がん検診を想定している。

2. 胃内視鏡検診における対象年齢・受診間隔について

(1) 胃内視鏡検診においては、対象年齢を 50 歳以上とし、検診間隔は 2 年に 1 回に設定とするか。

ご意見

- ・指針やマニュアル通りでよいかと思う。

〈回答〉

ご意見を踏まえて検討する。

ご意見

- ・事務局案の「検診実施体制の確保状況によっては検診の対象年齢を限定する」とは、上限を決めるということか。胃内視鏡検診の対象者を限定することについては、上限設定はあっても 5 歳刻みに限定することは、マニュアルと異なってしまうため妥当ではないと考える。

〈回答〉

対象年齢の制限については、実施体制の状況やご意見を踏まえて検討する。

ご意見

- ・胃部エックス線検診の実施についてはどのように考えているのか。胃内視鏡検診を開始した場合は、胃部エックス線検診も併用して実施する予定か。
- ・胃がん検診として、将来的に胃内視鏡検診のみとするのか。

〈回答〉

- ・指針に基づき、胃部エックス線検診も併用して実施する予定。
- ・指針に同年度は胃内視鏡検診と胃部エックス線検診の併用は不可、胃内視鏡検診を受診した翌年度は胃部エックス線検診及び胃内視鏡検診ともに受診不可と記載されている。指針通りとしたい。

ご意見

- ・胃部エックス線検診の実施については、対象年齢や受診間隔はどのように考えているのか。被曝・不利益の観点から、胃部エックス線検診も指針で示されている通り、胃がん検診として 50 歳以上 2 年に 1 回の受診が妥当ではないか。
- ・特に 80 歳以上の高齢者は、バリウム誤嚥のリスクが高まるため、エックス線検診は上限年齢の設定を推奨する。
- ・指針には示されていないが、胃内視鏡検診を 40 代の若年層へ拡大してはどうか。

〈回答〉

ご意見を踏まえて検討する。

ご意見
胃がんの既往（内視鏡的粘膜下層剥離術後など）などがあっても検診の対象になるのか。

〈回答〉

マニュアルには、治療中は原則対象外であるが、胃がん既往（内視鏡的粘膜下層剥離術後など）等を一律除外せず、主治医と相談の上で、経過観察等の保険医療の必要がなくなった場合は、検診の対象とする方向で検討する。